

# 福岡県における教員研修

## 處 愛 美

### 1 はじめに

福岡県における県獣医師会と福岡県教育委員会の連携の経過と事業については2016年発行の本紙20号に報告した。

今号では、約20年間にわたって行ってきた教員研修について報告したい。

### 2 今まで経験した教員研修 (主催者)

- ・校長研修 (県教委, 教育事務所)
- ・副校長・教頭研修 (県教委)
- ・指導主事研修 (教育事務所)
- ・10年経験者研修 (教育事務所)
- ・飼育担当者研修 (県教委, 教育事務所, 生活科・総合的な学習教育研究協議会)
- ・保健主事研修 (教育事務所)
- ・生活科キャリアアップ研修 (県教育センター)

私が今まで関わってきた主な研修は以上であるが、地域の教員たちの勉強会でお話させていただくようなこともあった。

現在も継続している「学校動物飼育のための支援事業」において、最初の2年間で県教委所管の市町村立小学校すべてを対象に必ず1名は参加することが義務付けられた教員研修は、公開授業(生活科, 特別活動, ふれあい等)とその後の講話, 協議がセットになったものであった。ただこれほど大掛かりな研修を毎年行うのは困難で、持続的な研修のあり方を考える必要があると思っている。また、当初、管理職研修は、新任校長研修と新任副校長・教頭研修の二つの研修を行っていたが、3年程度で校長に昇任される副校長・教頭もおられることから、近年では新任副校長・教頭研修だけになっている。

### 3 研修内容

研修によって、あるいは感染症などの状況によって内容は多少変わってきているが、基本的なものは変わっていない。

- (1) 学校教育における動物飼育の意義
- (2) 飼育活動が生きる学習
- (3) 学校における動物飼育の現状・問題点(知識の不足, 予算の不足, 人手の不足, 時間の不足)
- (4) 動物飼育に関する課題(動物の健康, 衛生管理の面から)
- (5) 学校(教員)と獣医師の連携・協力のあり方

### 4 全県で実施した教員研修に参加した教員の感想

#### (1) 生活科 授業



- ・子供達の活動意欲が高く、生き生きと活動していた。
- ・子供達の表情やつぶやきが印象的だった。
- ・怖がっていた子が抱いた後に「気持ちいい」と嬉しそうにしていたのが印象的だった。
- ・生命の教育, 心の教育に動物との触れ合い(実体験)の重要性を感じた。
- ・獣医師の子供向けの話がとてもわかりやすく

参考になった。

- ・獣医師が、わかりやすく丁寧に質問に答えてくれたのが大変参考になった。
- ・獣医師の語り方が暖かく、授業がほのぼのとした雰囲気でもとても良かった。

#### (2) 生活科 講話

- ・心配していた鳥インフルエンザの話が聞けて良かった。
- ・教師自身が動物のことをよく知らないといけないことがわかった。
- ・小動物はケージ飼育ができることを初めて知った。
- ・動物を飼育する際の留意点がよくわかった。

#### (3) 特別活動 授業

- ・日常的に関わっているのは飼育委員会の子供達だが、実際はお世話活動しかできていない。
- ・活動に向けた子供達の目的意識の持たせ方が大変参考になった。

#### (4) 特別活動 講話

- ・獣医師の話は、子供達にとってわかりやすく実践につながるものだった。
- ・動物とふれあう楽しさと難しさがよくわかった。
- ・「動物の死を恐れてはいけない。大切なはその理由や過程を示すことが大切」という獣医師の言葉が印象に残った。

#### (5) 動物ふれあい 講話 教師のふれあい体験

- ・学校の実態をよく理解していただいた上での話を聞けたのでとても良かった。
- ・獣医師がこんなに学校の飼育動物のことについて考えてくれていることを初めて知った。
- ・動物とぬいぐるみの違いという考え方は、大変納得できた。

#### (6) その他

- ・獣医師の人数、動物の数がちょうど良かったので、子供たちがしっかり動物と関わっていたと思う。
- ・自校で、まず低学年の教員に今回の研修内容



を伝えていこうと思う。

- ・自校に動物がいないので、動物を飼育して授業に活用したい。
- ・生活科の年間計画に飼育動物の活用をきちんと位置付ける必要があると思う。
- ・研修教科や内容を実態に応じて実施できるような研修のあり方を検討してほしい。

## 5 成果と課題

約20年にわたって様々な教員研修を行ってきたが、学校動物飼育体験の良さを理解していただく一番いい方法は、研究授業を参観した後で講話と協議を行う方法だと感じている。獣医師は動物がいれば生き生きするし、動物をさわれば自然と生きているものに対する向き合い方を示すことができる。教師は子供がいれば生き生き参加してくれるし、見方も違う。わざわざ感想を列挙したのは動物と子供がいれば多くを語らずとも成果は上がるということを伝えたかった。

たからであるが，常にこのような研修を行うことができるとは限らない．研修を通じて獣医師と教師が信頼関係を築くことが第一歩であろう．

最後に，これからの課題の一つとして管理職研修で使っているスライドを示したい．

（（公社）福岡県獣医師会理事）

## 管理職のマネジメント

- 管理職の「ここが出番」
  - － 世の中とつなげていくために
    - 飼育活動の位置付け—学校によって様々
      - － 生活科 総合的な学習の時間
      - 特別活動（委員会活動 学級活動）等
    - だとしたら、目的が違うはず・・・
      - － ゲストティーチャーに話してほしいことが伝えられているか？
- 一人一人の教職員のデザインしたカリキュラムが最も良い形でマネジメントされるようお膳立てすること